

2022年12月期通期  
決算説明資料

---

Recovery International株式会社  
東証グロース：9214

## 決算概況

- ❑ 売上高: 1,385百万円(前年同期比 **+23.4%**)
- ❑ 営業利益: 154百万円(前年同期比 **+6.2%**)
- ❑ 当期純利益: 108百万円(前年同期比 **+7.4%**)
- ❑ 前期に引き続き増収増益

## 事業概況

- ❑ 新規4拠点の開設
- ❑ 看護師等の採用・育成により、売上高は過去最高を更新
- ❑ 出店初期費用、採用費用は増加したが、営業利益は引き続き増加
- ❑ 上場関連費用を計上したが、当期純利益は前年同期比で増加

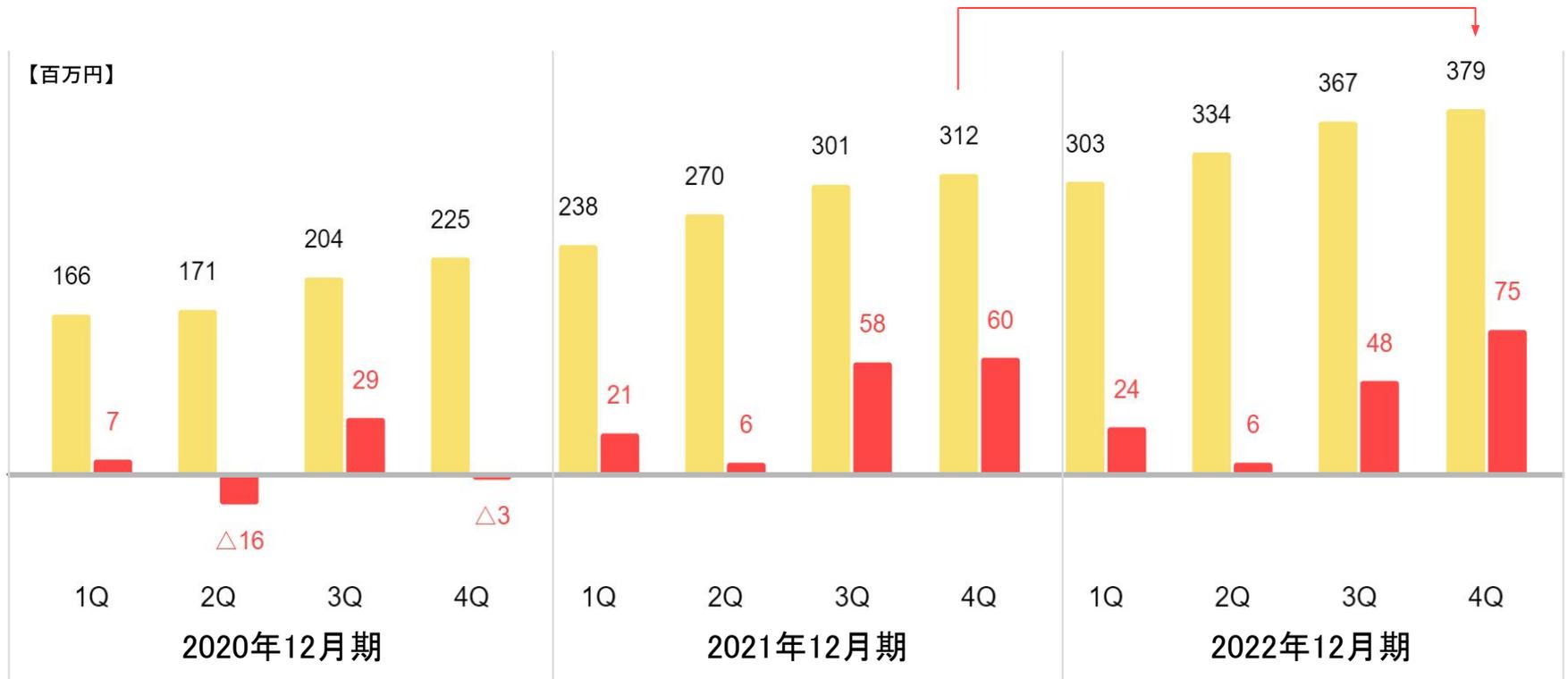
# 損益計算書

- 売上高: 既存拠点、新規拠点ともに当社の強みを活かした事業展開により前年同期比 **+23.4%**
- 営業利益: 2022年12月期の拠点開設関連費用及び全拠点のIT機器・訪問車両等の入れ替え、  
外形標準課税適用による事業税の計上により営業利益率は前年同期比 **△1.8pp**

(単位: 百万円)	2021年12月期	2022年12月期	前年比較増減率 (%)
売上高	1,122	1,385	+23.4%
売上総利益	456	546	+19.9%
営業利益	145	154	+6.2%
営業利益率	13.0%	11.2%	△1.8pp
経常利益	148	149	+0.0%
純利益	100	108	+7.4%

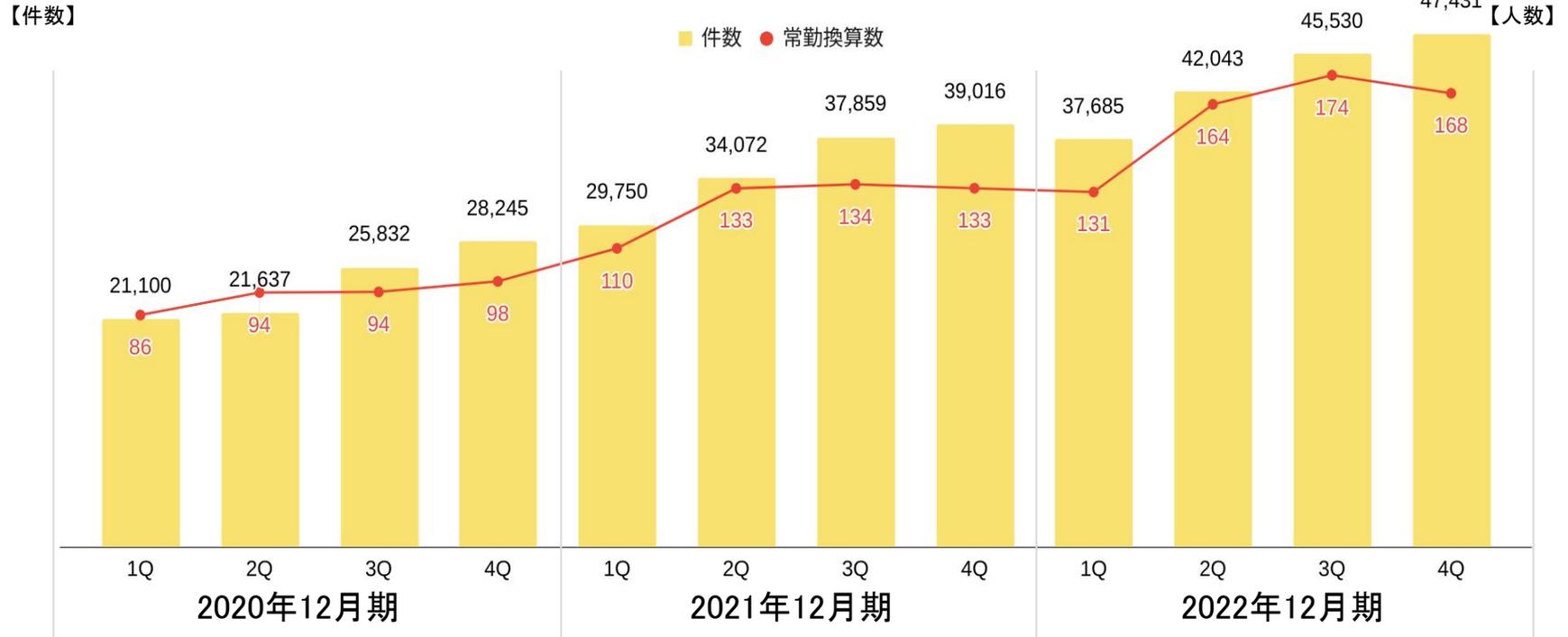
# 四半期単位の売上高・営業利益の推移

- 例年通り売上高・営業利益ともに下期偏重で推移
- 2022年12月期は上場コストを吸収しつつ増益を確保



# 訪問看護人員数および延べ訪問件数推移

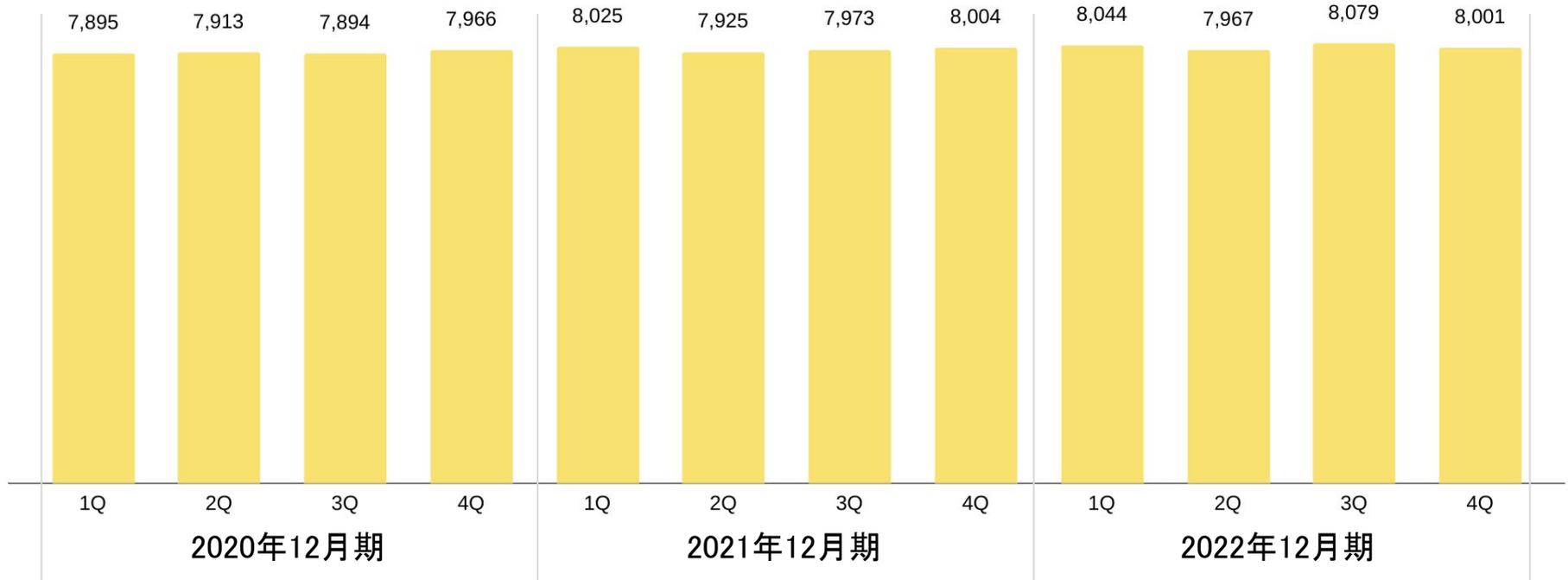
- 延べ訪問件数は順調に右肩上がりで推移
- 訪問看護人員数(常勤換算)は例年4月入社が多く、特に第2四半期に増加する傾向



# 訪問1件当たり単価推移

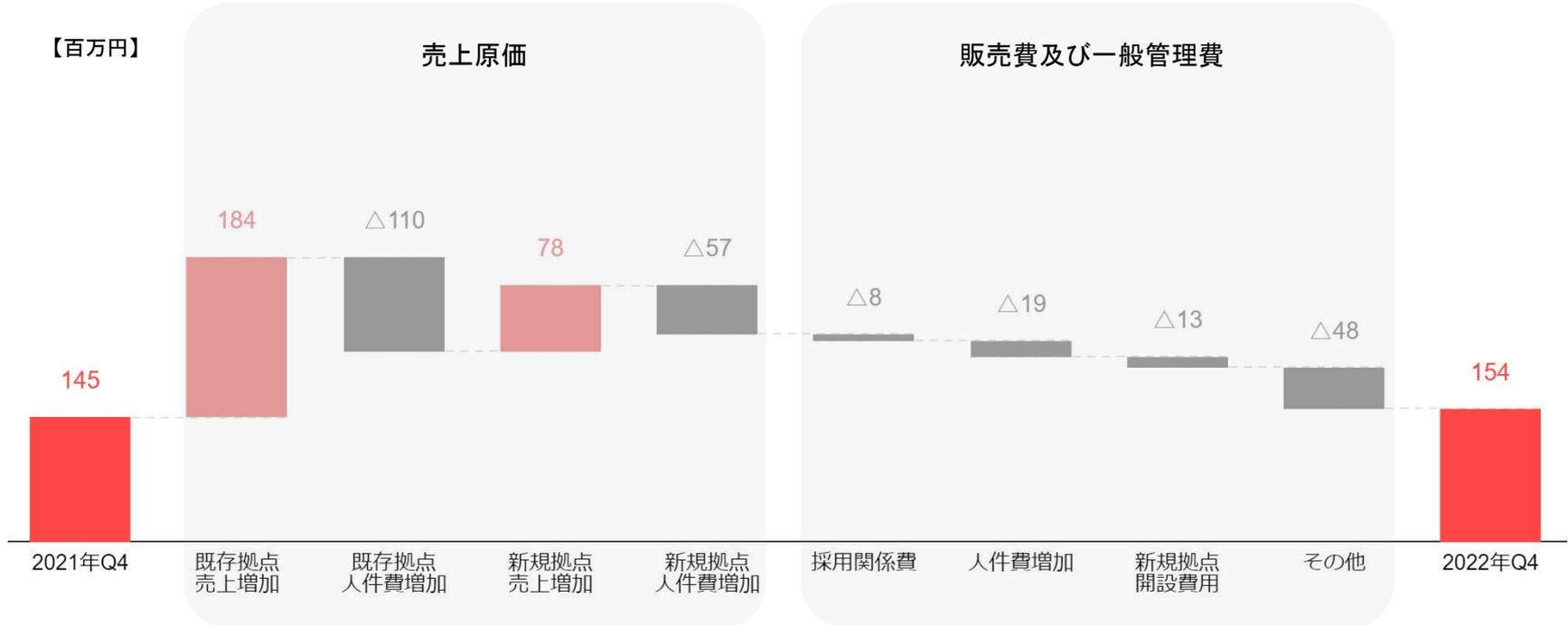
- 法改正の影響は軽微であり、訪問1件当たりの単価は通期を通して横ばいで推移

【円】



# 営業利益増減要因(前年同期比)

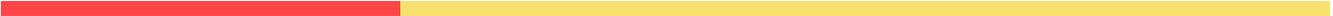
- ❑ 既存拠点は売上総利益率40%と高い利益率を確保
- ❑ 拠点運営強化のためのIT機器類の導入・入替、人員増加に伴う車両・電動自転車の購入・メンテナンスによる販売費及び一般管理費(その他)の増加
- ❑ 外形標準課税適用による事業税増加などにより販売費及び一般管理費(その他)が増加



# 貸借対照表

- IPOにより、流動資産及び純資産が大きく増加
- 黒字経営で継続的に成長し、自己資本比率は69.5%まで上昇

(単位:百万円)	2021年12月末	2022年12月末	前年比増減額
流動資産	450	756	+305
固定資産	24	27	+3
資産合計	474	784	+309
流動負債	182	199	+17
固定負債	61	39	△22
負債合計	244	239	△5
純資産合計	229	544	+315
負債・純資産合計	474	784	+309



# 2023年12月期 業績予想



## 決算概況

- ❑ 売上高:1,728百万円(当期比 **+24.8%**)
- ❑ 営業利益:176百万円(当期比 **+14.1%**)
- ❑ 当期純利益:124百万円(当期比 **+15.3%**)
- ❑ 前期に引き続き増収増益

## 事業概況

- ❑ 新規 **7** 拠点の開設
- ❑ 新規拠点の一部はドミナントではなく、立ち上げの難しい飛び地での出店にチャレンジ(持続的な成長性を維持するため)
- ❑ 過去最高の看護師等の採用・育成数を計画

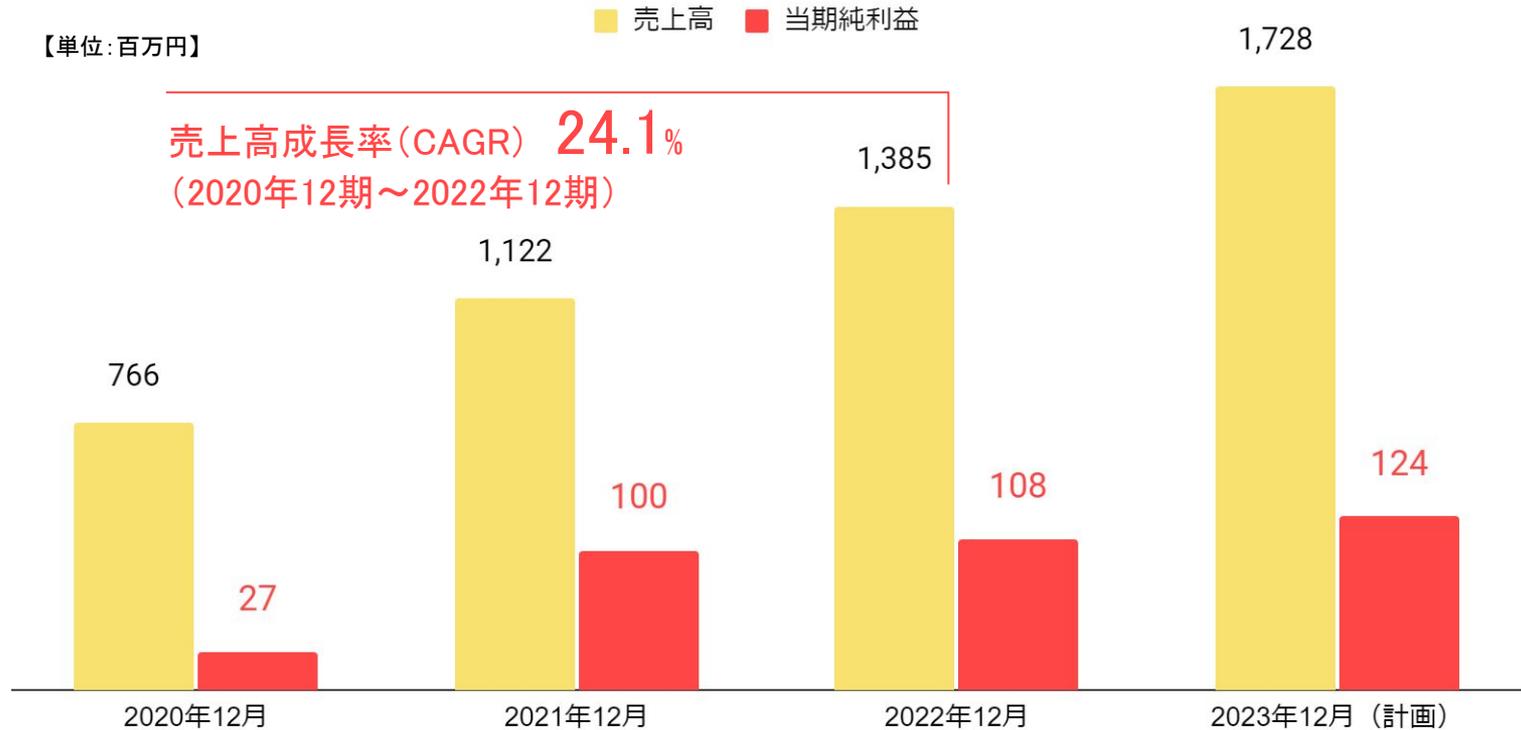
# 2023年12月期 業績予想

- 売上高、営業利益いずれも過去最高を更新と予想
- 売上高: 既存拠点、新規拠点ともに当社の強みを活かした事業展開により当期比 **+24.8%**
- 営業利益: 飛び地へ出店、バックオフィス体制強化のための投資により当期比 **+14.1%**

(単位: 百万円)	2022年12月期	2023年12月期	増減率 (%)
訪問件数	17万件	21万件	+24.4%
売上高	1,385	1,728	+24.8%
営業利益	154	176	+14.1%
経常利益	149	179	+20.8%
純利益	108	124	+15.3%

# 売上高 / 当期純利益推移

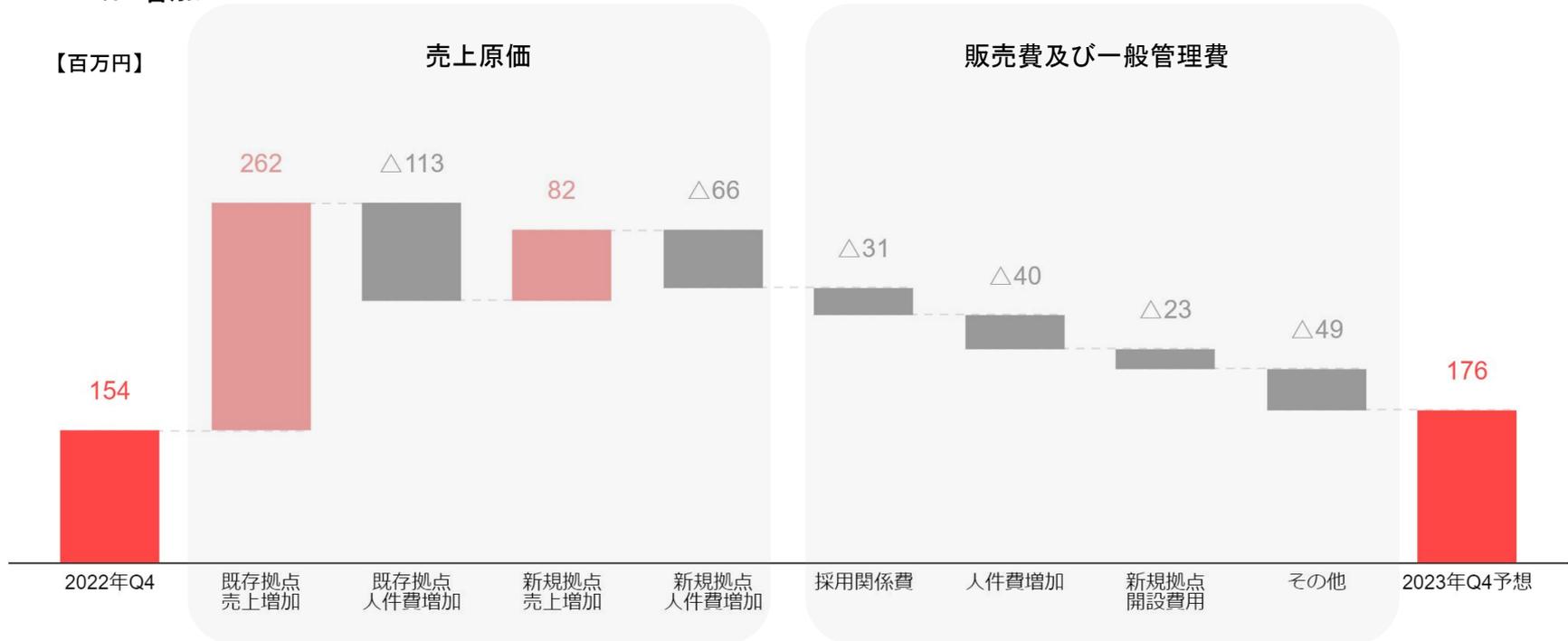
- ・売上高は順調に拡大を継続。
- ・税引後利益は安定した成長を継続。



# 営業利益予想の増減要因(当期実績 vs 業績予想)

- ❑ 既存拠点の売上総利益率は40%以上と高い利益率を確保
- ❑ 人員増加に伴う訪問備品購入や経年劣化に伴う入れ替えによる、その他コストの増加
- ❑ 売上高が非課税売上であるため、販売費および一般管理費増加に伴い、その他コストとして租税公課が増加

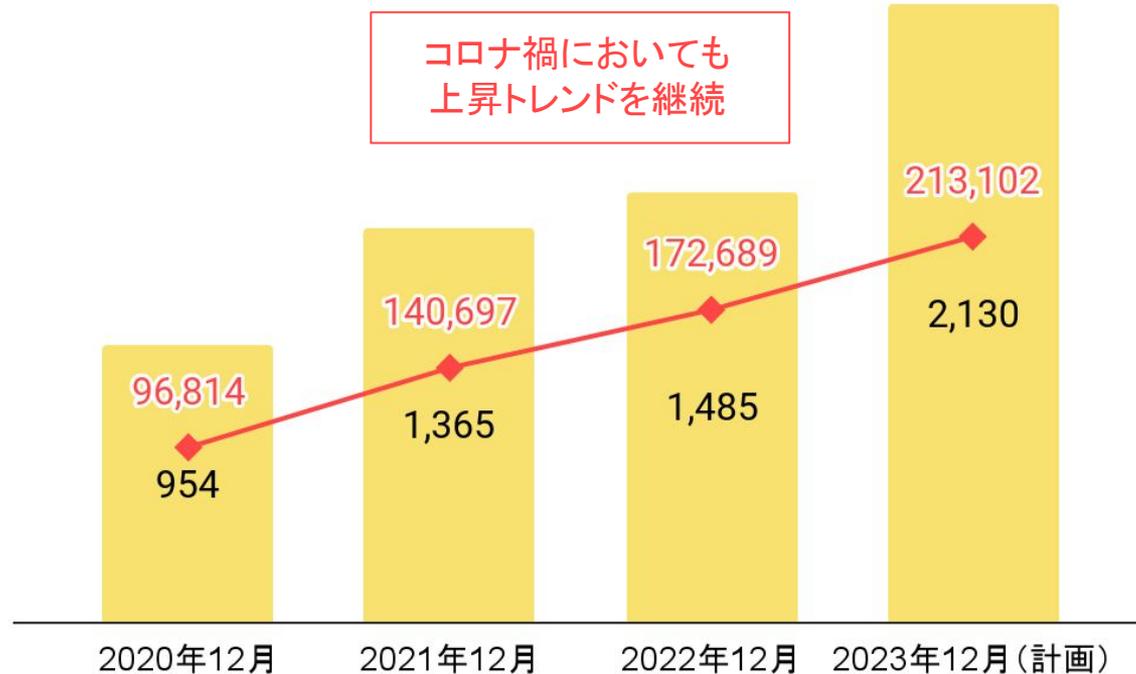
【百万円】



# 新規利用者獲得数・延べ訪問件数推移

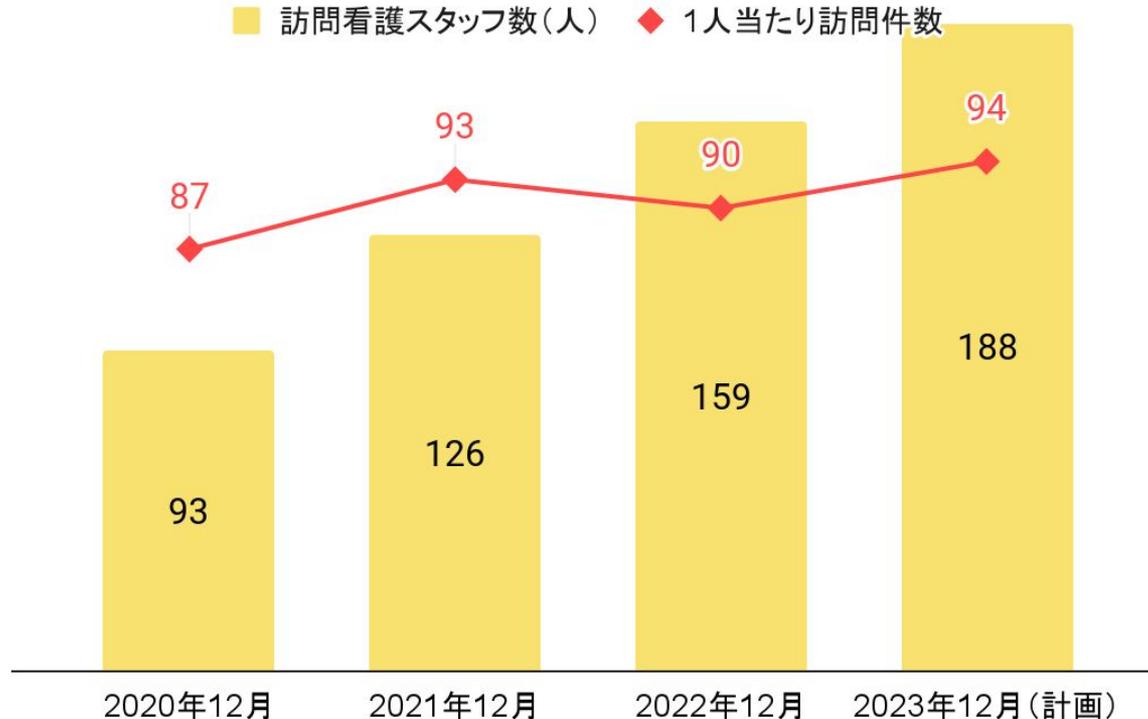
コロナ禍においても療養生活を送るうえで訪問看護は必要なサービスであり、堅調に推移。

■ 新規利用者獲得数(人) ◆ 延べ訪問件数



# 訪問看護スタッフ数と1人当たり訪問件数

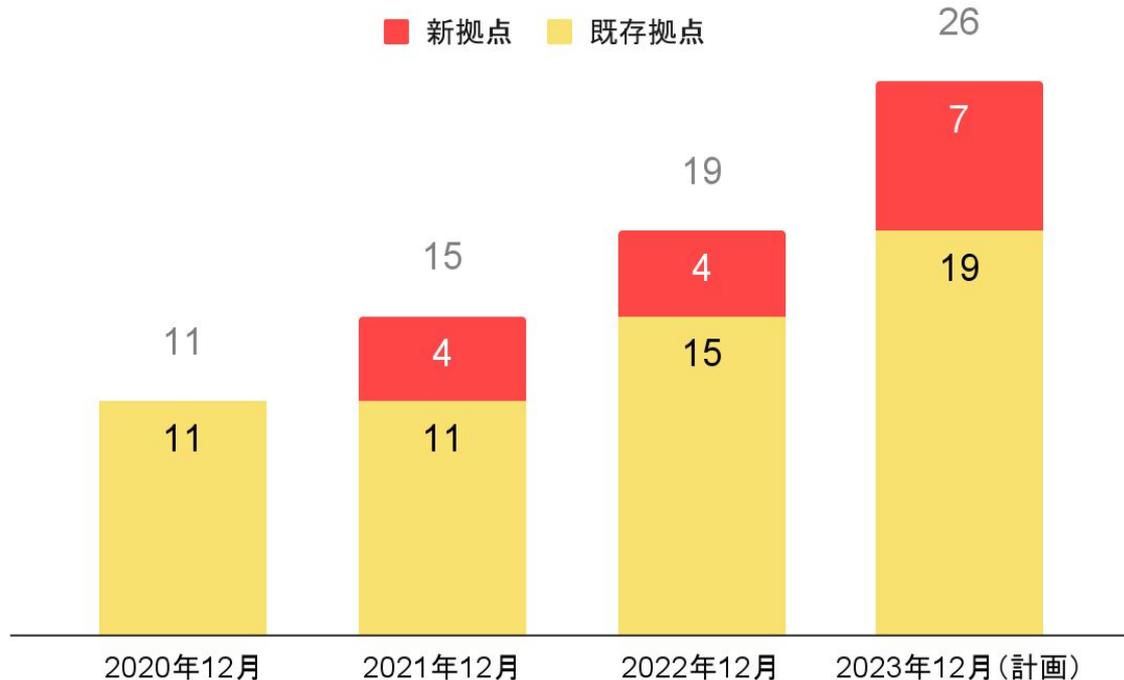
スタッフ数が増加する中でも1人当たり月間訪問件数は高止まりをキープ。



※訪問看護スタッフ数、1人当たり訪問件数ともに1月～12月の平均

# 拠点数推移

- ・新規拠点開設の加速化。2021年12月期以降、年間 **4拠点~7拠点**の出店を継続。
- ・2022年12月期は計画通り出店。
- ・2023年12月期についても当初の計画通り出店予定。



2022年12月期通期  
決算説明資料

---

Recovery International株式会社  
東証グロース：9214